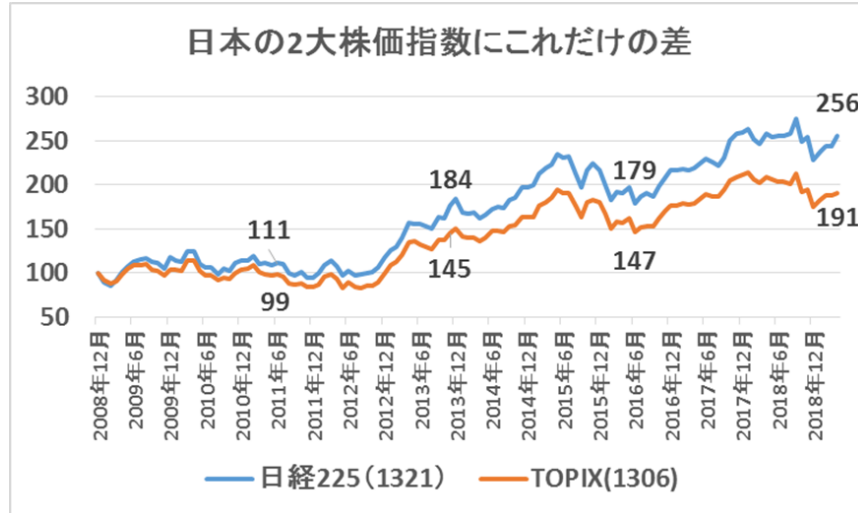


ATTENTION

どちらの株価指数に投資していたかで、大きな違い



東証株価指数(TOPIX)と日経平均株価指数といえば、日本の2大株価指数です。このうちTOPIXは、内外のほとんどの機関投資家が運用する際に、運用成果を測るときにの基準指数にしています。日経平均は、広く一般になじみのある株価指数です。ここで大変興味深いデータを紹介しましょう。いずれの指数も代表的な上場投資信託のデータを使っていますが、過去10年のパフォーマンスでみると、日経平均(グラフでは日経225と表示)の方がTOPIXを34%も上回っているのです。3年ほど前に一時、差は縮まりましたが、その開きは拡大傾向にあります。そこには指数を構成する銘柄や計算方法の違いがあります。TOPIXが東証1部全上場企業の時価総額加重平均に対して、日経平均は代表的な225社の株価の単純平均となっています。そのためTOPIXは時価総額が大きい会社の影響が大きくなり、日経平均は高株価の会社の影響が大きくなるというわけです。そこで、どうしてTOPIXがこれだけ日経平均に負けているかということが導き出されます。実は時価総額が大きい、株価は低迷する銀行や重電、鉄鋼、自動車などの影響がTOPIXは大きいのです。一方日経平均は株価の単純平均ですから、規模に係わらず高株価の会社の影響が大きいというわけです。われわれがどちらの指数に投資するかということにつながってきますから、その中味はよく理解しておく必要があるでしょう。

OPINION

目を覆う日本企業の不祥事

これでもかという日本企業の不祥事。これまでの不祥事を上げれば、このスペースがあつという間に埋まってしまう。今回のスズキの完成車検査不正では、なんと202万台のリコールを届け出ました。「スズキは前にもあったよなー」と思い返せば、不祥事のあと間もないときに、正月セールと称して、のぼりを立てたコマーシャルをやっていたのを思い出します。勤ぐれば、今回は3月決算セールが終わったから今、公表したとも見えます。鈴木会長は表に出ず、こっそり「反省しています」という程度。またレオパレスに続いて、今度はダイワハウスです。防火安全性などの建築基準に満たない戸建てや共同住宅が30都府県で2000棟あると発表したのです。16年12月に内部通報があったのに、現在まで公表しなかったとのこと。当時の社長は知っていたが、今の社長や樋口会長は最近まで知らなかったと、過去の人のせいにしていきます。今回記者会見に出てきたのは専務。よくマスコミに登場する天皇、樋口会長は貝の様に出てきません。「社会が求めるものを」と唱えた創業者石橋信夫氏は、今回の不正を草葉の陰で嘆いていることでしょう。

少し前にはIHIの航空機エンジン関連の不正、その前にはKYBの耐震機器の不正。マンションにも相当数設置されていますが、まだ公表されません。政府も甘い。人のうわさも75日と、このままやむやみになるのでしょうか。

いまのところ、TVコマーシャルの常連のダイワハウスやスズキは自粛していますが、不正を行なった企業は見苦しいので、3年程度コマーシャルは出せないようにするべきです。不正を行なった日産のコマーシャルが「やるね、日産」では、皮肉にしか聞こえません。TV局は、スポンサーに甘いと見られてもしかたありません。そしてしわ寄せは全部消費者に来ます。消費者は買うか買わないかの生殺与奪の権を持っているのですから、不正を犯した会社の製品やサービスは、未来永劫買わないようにしましょう。

MARKET

	(4月末)	(3月末比)
日経平均	22,258.73円	+1,052.92円 (+4.97%)
NYダウ	26,543.33ドル	+614.65ドル (+2.37%)
米ドル	111.55円	+0.70円 (+0.63%)

今月の言葉:

利益というものは一発勝負で得られるものではない。しかし正しくやれば確実に得られるものである。そしてそれは人生そのものである。
- 渋沢栄一「論語と算盤」

投資アドバイスをどこから受けたらいいか-後で大きな違いになる。

米国モーニングスターのリタイアメント(退職)部門のヘッドが書いた、おもしろいレポートがありましたので、紹介しましょう。これは、皆さんの資産形成に深く係わるものです。

この調査は、25歳から55歳までの米国人を対象に行なったもので、その内容は、家計の意思決定で、運用資産の安全度(リスクレベル)、貯蓄性向、保険加入率、クレジットカードの当座借入(リボルビング)、緊急用資金準備の5つの面で、ファイナンシャル・プランナー、取引主体のアドバイザー、友人、インターネットの4つの手段を使った場合の効果を測るというものです。この結果には、あらためてどこからアドバイスを受けたらいいかということが、お金をしっかりつけていく上で、大変重要であることを実感させられます。

その結果は、ファイナンシャル・プランナーがアドバイザーの場合、全般的にもっともよい意思決定をしているとしています。続いてインターネット、次に友人、取引主体のファイナンシャル・アドバイザーのアドバイスを受けている家計が「もっとも悪い」意思決定をしているということです。「友人に聞くほうがまし」とは驚きます。

ここで「取引主体のアドバイザー」とはどのような存在か、お話ししましょう。お客様に投資信託、株などの金融商品を勧めて、手数料を取ったり、取引頻度を上げて売買手数料を収入としたりするようなアドバイザーのことです。具体的には銀行員、証券会社のセールス担当者、日本でIFAといわれる金融商品仲介業者のことを指します。ただし、日本ではこれらの存在もファイナンシャルプランナーと呼ばれますから、注意が必要です。ここで言っているファイナンシャル・プランナーは、日本では、金融商品を販売したり、売買したりして手数料を得ることが主の収入源ではない存在と見るとよいでしょう。

そして最もよい成果をもたらすとするファイナンシャル・プランナーの価値を強調します。家計の金融リタラシー(知識・能力レベル)の

欠如をファイナンシャル・プランナーは補い、その価値は支払う助言料を大きく上回るというのです。

ファイナンシャル・プランナーと契約している家計は、収入が多く、裕福な傾向があり、教育レベルが高く、より運用に通じている傾向があるとしています。

また、ファイナンシャル・プランナーの恩恵は投資の域を超え、個人が長期のゴールに向け、市場の下落から不安を抑えるように支え、お金周りの習慣を改善させる役割も果たせるということです。リタイア後の資金ニーズを図り、運用ポートフォリオを構築し、税制優遇制度を活用したり、リタイア後の安心をもたらしたりしてくれるとしています。

一方で、取引主体のアドバイザーと契約している家計はあらゆる面で悪い結果が出ていて、自分の資産の健全性についてあやまった認識をしている可能性があるとしています。すなわち狭い分野でしかアドバイスを受けていないのに、全体がカバーされていると誤解したり、資産状態に過度に自信をもってしまったりする傾向です。結局はすべての分野で望ましくない結果になるというのです。

日本で圧倒的なシェアを持つこれら銀行員、証券会社のセールス担当者、IFAといわれる金融商品仲介業者の存在が、家計の資産形成で、最も悪い結果をもたらすというのですから、堪ったものではありません。自分でインターネットで調べたり、友人に聞いたりしたほうがましなのです。

私ども、びとうファイナンシャルサービスは、まさにこの調査レポートでもっともよい結果をもたらすとしている「ファイナンシャル・プランナー」のサービスを100%実践しています。

SEMINAR

びとうファイナンシャルサービス代表、尾藤峰男が教える 『こうすればお金の運用で必ず成功する！セミナー』

大切なお金の運用で、本当のことを知るのには大変むずかしいです。預金金利はゼロ、国の年金だけでは足りず、金融機関も利益追求に走っていて、自分自身でしっかりお金を運用する必要があります。高まっています。

このセミナーで、他では絶対に聞けない「お金の運用で必ず成功する方法」を学びましょう。40年の投資経験と資産運用で頂点のグローバル資格を持ち、金融機関とのしがらみが全くない資産運用アドバイザー、尾藤峰男だから語れる「お金の運用で必ず成功する方法」を伝授します！6名様限定です。お早めにお申し込みください！

日時： 2019年5月25日(土) 15:00～17:00

場所： 東京都千代田区有楽町1-12-1 新有楽町ビル2F リファレンス会議室

JR有楽町駅 中央西口/日比谷口より1分

東京メトロ有楽町線有楽町駅 D2出口より連絡

東京メトロ日比谷線・千代田線日比谷駅 A6出口より3分

都営三田線日比谷駅 B1またはB2出口より3分

参加費：1,000円(当日支払い)

メールまたは電話にて「5月25日セミナー参加希望」として、ご氏名、ご年齢、ご連絡先をお知らせください。

メール： info@bfsc.jp Tel: 03-6721-8386



- どうしたら株式投資で最も成功するか
- 本当に正しいお金の運用法とは
- もっとも効率的にお金を増やす方法とは
- 国際分散投資はどうやったらいいか
- よい金融商品の選び方
- 証券会社や銀行にだまされないために
- お金に困らない老後の安心を確保するために
- NISAやiDeCo(個人型確定拠出年金)の活用法
- 安心してお金の相談をできる場所はどこか

びとうファイナンシャルサービス 公式HP

<http://www.bfsc.jp>

あなたの資産運用を成功に導くメルマガ！

お申し込みは <http://www.bfsc.jp/>

発行者：びとうファイナンシャルサービス
代表取締役 尾藤峰男

電話：03-6721-8386
携帯：070-5567-3311

FAX: 050-3156-1072
電子メール： info@bfsc.jp